Japan Translation Federation

日本翻訳ジャーナル

社団法人日本翻訳連盟機関誌　2005年3月/4月号

- 目 次 -

Report

秤なき商い 1
中国特許翻訳事情 2
翻訳者の保険について 4

Honrenso

No.98 6
No.99 8

Information

JTF **西日本セミナー報告** 9
JTF **翻訳環境研究会報告** 10
進化する電子辞書 12
翻訳者のための書誌（第2回） 13
法人プロフィール 14
個人プロフィール 15
JTF **ニューフェイス** 16
理事会だより 16
事務局だより 16

社団法人日本翻訳連盟
〒104-0032
東京都中央区八丁堀 2-8-1 **牧野ビル** 3F
TEL■03-3555-6365
FAX■03-3552-1784
発行人■勝田 美保子（会長）
編集人■野上 員生
印刷■創栄印刷工業株式会社
E-mail■info@jtf.jp
URL ■http://www.jtf.jp/

秤なき商い

伝（株）取締役　近藤 哲史

次のような交渉を想像してほしい。「当社の単価は1ワード25円、品質は8.0です。A社さんはワード20円でやると言っている？　なるほど。でも品質はどうでしょう？ 6.1ですか。それなら、A社さんで翻訳すると、読者から訳文が分かりづらいというクレームが30%増えるでしょうね。当社に発注する方が、結局はお得ですよ」

翻訳業界においてこのような交渉がなされていることを、私は寡聞にして知らない。一方、他の業界に目を転じてみると－ネジ業界でもいい、シャツ業界でもいい－ごく日常的なやりとりであることは容易に想像がつく。あちらにあってこちらにないものは何か？ それは、自らの製品を客観的に評価する尺度である。

実務翻訳の世界で活動する以上、自分たちの生み出すものは「作品」ではなく「製品」であると私は考えている。製品を作り出しているにもかかわらず、私たちには秤がない。もの差しがない。ワード数や文字数という尺度はあるが、それはネジで言えば個数、シャツで言えば枚数を表すためのものだ。品質を測る尺度、これがないのだ。

訳抜けや誤訳、用語集やスタイルガイドとの不整合を、例えば1,000ワードあたりの件数として評価する方法ならある。しかし、この方法で測ることができるのは不良品発生率である。訳文の「理解しやすさ」や「美しさ」を評価できる指標はないだろうか。それがあることで我々の価値がプラスに評価される指標を作り出せないだろうか。訳文に良し悪しがあることは、誰にでも分かる。それを客観的に表すことはできないものだろうか。

訳文の品質を客観的に評価し、その結果(ここでは「品質インデックス」と呼ぶことにする)を数値で表すことができるようになれば、そのメリットは大きい。まず、「労働力」ではなく「価値」を売ることができるという、我々の悲願を達成するワンステップになるだろう。主として需給バランスと、結局は作業時間への対価に落とし込まれる（ように思える）翻訳料金を、もっと主体的に定めてドライブすることができるようになる。

また、このインデックスがあれば、品質のコントロールも容易である。訳した文章をブラッシュアップするとき、ついつい手をかけ過ぎてしまい、過剰品質となって採算を悪化させることはないだろうか。手を抜くのは論外としても、「品質インデックス」を測りながら価格に見合ったポイントで完成させれば、採算を取りつつクライアントを納得させることが可能となるだろう。

我々は、「コスト」「納期」「品質」のバランスの上に立ってビジネスを行っているはずだ。にもかかわらず、コストカットのプレッシャーに簡単に屈してしまうのはなぜか？ 無理な納期の要求を結局呑んでしまうのはなぜか？ それは、品質という我々の本来の価値を目に見える形で提示していないからではないか。「そんなことをすれば質が下がりますよ」と口にはしながらも、どの程度下がるのか具体的に示すことができなければ、最終的には仕事を出す側の論理に押し切られてしまうのは当然のことだ。

我々には「品質インデックス」が必要だ。ただ、訳文の分かりやすさは読む人によって異なるだろうから、その定義は難しいだろう。官能検査に近いものがあるかもしれない。しかし、スイカの甘さを測る装置だってあるのだ。「スイカと翻訳を一緒にしてもらっちゃ困る」という声があるとしたら、そこには少しばかり驕りが入っているように私には聞こえる。まずは作ってみよう。持ってみよう。使ってみてダメなら、改良を加えるなりゴミ箱に叩き込むなりすればよい。「秤なき商い」は、あまりに哀しい。

中国特許翻訳事情　－日本との比較、将来像－

(株)知財翻訳研究所 代表取締役　　浜口 宗武

「政冷経熱」と対中国特許出願急増

中国の一部の識者は中国と日本との関係をさして「政冷経熱」という言葉で表現するそうです。政治面では「冷めた」関係が続く一方、経済面では貿易投資額が膨らみ人や情報の行き来が過熱している状態を意味するとのことです。「経熱」にともない知的財産関連の動きもヒートアップしつつあります。日本企業にとって、外来製品の模倣が極めて盛んな中国での事業展開は特許や商標など知的財産の確立抜きにしては考えられません。中国知財筋の最新情報によれば、2004年中に日本企業が中国に対して行った特許出願件数は約30000件に達したものと推定されるとのことです。2003年の実績が24000件でしたから約25%の大幅な増加です。

顕在化する誤訳問題（miniature carは小型自動車か"toy"か？）

WTOに加盟してから3年あまりしか経っていない中国では、特許法を中心とする法制度整備は一段落したものの、それを支える人材の育成は実質的にはこれからというところです。特許庁審査官の増員、弁理士試験合格者枠の拡大など取り組みは進んでいますが、特許翻訳や特許調査などの周辺サービス業はまったくといって良いほど育っていません。多くの日本企業は自社の中国出願に際し特許明細書中国語訳の誤訳・奇訳にあたまを抱えています。もとの日本語原文とかけ離れた内容の中国語訳がなされた結果、特許登録されたはいいがいざ権利行使しようとする段階で登録された権利範囲が陳腐なものであることがはじめてわかり、涙をのんで引き下がったというような事例が複数紹介され、日本企業知財部では誤訳対策が急務となっています。急増する出願に翻訳態勢が追いつかず「とにかく中国語にして」とりあえず出願を急いだ結果が誤訳問題として現在顕在化しつつあるのです。商標においても同様で、おもちゃの小さな自動車などをイメージしたminiature carという言葉が「小型自動車」と解され、指定商品区分が実物の自動車を含むジャンルに誤登録された例などがあります。

この道はいつか来た道（日本30年、韓国10年で成し遂げたことを中国は5年で）

このような状況は日本においても高度成長初期に見られたことです。海外から日本への出願のための期限ぎりぎりの膨大な英文和訳などについて「とにかく日本語になっていれば良い」というようなことが発注者の口からも半ば公然と言われていた時期があります。出願件数の飛躍的な増大に翻訳力が追いつかず品質が荒れ、欧米出願人の不興を買っていた時期が長く続きましたがその後自然に業界が形成され30年以上を経て現在に至っています。韓国では同様の問題を10年で克服したと言われます。

このように中国での特許翻訳サービスの現状は30年前の日本での状況に似ていますが翻訳者不足・品質不在の深刻度はその比ではないように思います。中国でも日本同様の過程を辿ることになると思われますがこれをごく短い時間でやり遂げなければなりません。当然無理があり混乱もあることでしょう。「誰を責めることもできない」というのが現在の共通の認識です。

日本政府の取り組み（日中知財翻訳者育成）

日本企業の中国出願における明細書翻訳品質を向上させ正しい権利設定が行われるような支援をすることは日本の国益に適うという観点から、日本政府は2004年度対中国ODAの一環として、JETRO（日本貿易振興機構）経由で「日中知財翻訳者育成事業」を実施しました。この事業は(株)知財翻訳研究所とNPO日本知的財産翻訳協会（NIPTA）が受託し、昨年暮れ北京においてスクーリングが行われました。（写真は北京における開講式の模様）特許についての基礎知識、日中の特許法制度の違いからはじまり、機械、化学、電気の3分野に分かれて明細書日中翻訳の実務講習（延べ31時間）を内容とするものでした。昨今「最早対中国ODAは不要」という論議があり、円借款やハコモノに対しては見

株式会社翻訳センターでは、随時、翻訳者や校正者を募集しております。

言　語：　英語・中国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語・韓国語　等（その他言語も募集しております）
分　野：　特許・工業・医薬・金融
内　容：　翻訳者・校正者・メディカルライター・通訳者・ワープロ外注・テープリライター　等
応募方法：　履歴書・翻訳経歴書を下記【東京】の外注先担当宛へ郵送、または弊社Webサイトからご応募下さい。

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation
since1986
株式会社翻訳センター

虎ノ門と日本橋の事務所を統合し、汐留のヴィータイタリアへ移転します。下記、東京住所の業務開始日は2005年3月22日（火）です。
【東　京】　〒105-0021　東京都港区東新橋 2-4-1 サンマリーノ汐留8F　tel 03-6403-9965　fax 03-6403-9964　freelance@honyakuctr.co.jp
【大　阪】　〒541-0046　大阪市中央区平野町2-5-8 平野町センチュリービル9F　tel 06-6202-3287　fax 06-6204-0608　osaka-g@honyakuctr.co.jp
【名古屋】　〒450-0002　名古屋市中村区名駅3-12-12 竹生ビル2F　tel 052-571-2101　fax 052-571-2103　nagoya@honyakuctr.co.jp
www.honyakuctr.com

直される一方、社会制度やサービス産業についての先導的投資は継続されるものと見込まれます。

中国における特許翻訳者像（文系出身者が主力、若年層が主体）

「日中知財翻訳者育成事業」の受講者募集は特許事務所を主な対象として行われ、受講者（150人）の9割を特許事務所・法律事務所の在勤者および系列翻訳者が占めることになりました。すなわち、翻訳を行っている人たちが勤務先、発注先の特許事務所の指導でこのスクーリングに参加したものです。この受講者層はいみじくも現在の中国特許業界で実際に翻訳を担っている翻訳者層の構成を反映したものだと言えます。先ず年代別に見ますと150人のうち20代が43%、30代が32%、40代が11%、と、日本に較べて若年層の割合が非常に高いことが特筆されます。男女の比率では男性51%女性49%で拮抗しています。技術分野別に見ると、機械関係では男性52%、女性48%、電気では61%女性39%と男性が多く、対照的に化学分野では女性60%、男性40%となっており、日本における特許翻訳業界の状況に酷似しています。また、それぞれの分野の受講者にインタビューしたところ、文系出身者の割合が高いという実感を得ました。中国特許事務所はいずれも理系出身者が翻訳をするという触れ込みで宣伝していますが、実情は語学系学部出身者に頼らなければならないというのが現状で、この点においても日本に似ています。国の近代化を進める中国では理系出身者が国の指導者層を占めており、地方政府や民間においても同様なことが言えます。理系出身者が翻訳という仕事に目を向けるようになるにはまだまだ時間がかかると思われ、将来にわたっても優秀な文系出身者が知財翻訳の中心的な担い手になることでしょう。

翻訳が特許出願サービスのカナメとの認識

今まで9社しかなかった中国の渉外事務所（他国からの特許出願の代理を行う資格を持つ事務所）が、昨年春国策により115と一挙に10倍以上に増えました。当然顧客争奪戦が熾烈化しています。どの事務所も営業の強化とサービス向上に力を入れるようになってきました。例えば北京のある新興事務所では、ターゲットである有力日本企業の過去の日本出願公報と対応中国出願公報とを対比させてその日本企業用の日中技術用語データベースを時間をかけて構築し、これを武器にして渉外資格取得と同時にターゲット企業にアプローチし、見事受注に成功したようです。その新興事務所の代表者は、従来から明細書翻訳の重要性を認識しており、事務所に付属する翻訳会社を設立しそこで翻訳者の育成教育を行っています。従来の中国特許事務所ができなかったことです。

このように、日中特許翻訳の品質の良し悪しが日本企業が中国特許事務所を評価する際の大きな要素となってきました。優秀な翻訳者を確保するための争奪戦もはじまり、翻訳価格上昇といった現象も顕れるかもしれません。

日→中訳が良いのか英→中訳が良いのか？

もうひとつの問題は、日中両語の文型の相違です。中国語は英語同様S＋V＋Oの文型で、日本語と異なります。例えば、我　愛　動物（Wo Ai Dong Wu）は、そのままI love animalsですが、日本語では「私は動物を愛します」というようにS＋O＋Vの文型となります。この違いが文中の修飾句の係り具合などを不明確にし、不良訳に結びつくことが多いようです。

換言すると、英語から中国語に翻訳したほうが日本語から直接中国語にするよりも間違いが少なくなるということです。このことは既に先進的な日本企業においては分析実証済みです。更に理由をあげるならば、中国では英語教育のレベルが高く、日本語勉強人口よりも英語を指向する人の方が圧倒的に多いことから、英語から中国語に翻訳したほうがリスクが少ないということが指摘されます。英訳が介在する場合、日本語から英語への翻訳の段階でエラーが生じる可能性があるのですが、それを考慮してもなお最終言語である中国語の訳文の正答率が高いということです。そのようなことから、対応米国出願があるときにはそれに用いる英文明細書をソースランゲージとして中訳するという方法を採用する日本企業が増えてきました。

英訳の重要性

このような方法が採用される場合には最初の翻訳、すなわち日本語から英語への翻訳の品質がますます重要になってきます。英訳の段階で生じたエラーは当然中国語訳にも反映されてしまいます。企業の知財戦略はますますグローバル化しつつあります。複数の出願対象国のいずれにおいても高品位の翻訳を確保することが必要です。そのため、出願人企業は種々の試行錯誤を繰り返し、知恵を絞っています。翻訳を行う立場としては、そのようなニーズに是非応えてゆきたいものです。

最高のバージョンを、お届けします。
ベストバージョンは、翻訳およびそれに関連するすべての作業において、
常に最高の品質をお届けすることを目指しています。
BEST VERSION
Translation
Editing
Planning/Design
株式会社 ベストバージョン
〒113-0021　東京都文京区本駒込6-10-5-203
TEL: 03-5395-4721　FAX: 03-5395-4725
http://www.bestversion.co.jp
Email: bv@bestversion.co.jp

翻訳者の保険について

JTF 個人会員　吉川　潔

●災害対策としての保険

昨年は、集中豪雨、台風、新潟県中越地震、スマトラ沖地震と大変な一年でした。昨年の 7 月 13 日、技術翻訳者に必要な最新知識を学ぶために上京しました。午前は幕張メッセで光学機器の展示会を見学し、午後は JTF 翻訳研究会の受講のためにフェローネットワークの翻訳会館に向かう予定でした。携帯が鳴り「洪水で堤防決壊、すぐ帰れ」という連絡でした。帰宅したら 1 階は完全に水没、パソコンや辞書など翻訳に必要な全てを失いました。家屋は新築することにし、中越地区に仮移転したら、地震が発生しました。幸いに工事に異常は無く、11 月に完成し戻りました。

JTF の勝田会長や関係者から激励の電話や葉書やメールを承り、どれだけ勇気づけられたことでしょう。全国から義援金やボランティアの応援をうけたことを、被災者の一人として御礼申し上げます。また、災害後の行政支援について質問されるので、次に馬鹿正直に記します。

7 月 13 日：集中豪雨で水害発生
8 月 21 日：2 万 5 千円　義援金より配分
9 月 7 日：50 万円　被災者支援法から
9 月 13 日：10 万円　義援金より配分
12 月 28 日：2 万 5 千円　義援金より配分

合計で 65 万円を頂きました。これは水害用で、地震地区には多額の義援金が集まり少々嫉妬しています。各種税金、健康保険、水道・電気・ガス・NHK 料金も約 1 ヶ月分減額になりました。民間の災害保険は、保険会社が同情して準火災扱いとなり、600 万円を受け取りました。

問題は被災者支援法です。水害後に田中真紀子さん、後を追うように小泉さんが視察し全力で支援すると語りました。被災者は最高額の 400 万円に期待しました。しかし、同居人の総収入が 500 万円未満は被害に準じた金額を受けますが、800 万円以上は最低になります。その中間も世帯主の年齢に準じて最低になります。同居老人の年金も総収入に加算されます。大半が最低の 30 ～ 50 万円でした。被災者支援法を実態に即するように改正するため、国会で審議が始まりました。成り行きに注目したいです。

近い将来に東海・関東地方に高い確率で地震が発生すると予想されます。体験から思いついた事項を次に記します。

- 義援金の配分は、被害者数が増えると細分されます。地震や水害も想定して災害保険に加入すべきです。
- 現金や通帳や証書は耐火金庫に保管していました。土砂に埋まりましたが、素材が耐水性なので無事でした。翻訳関連の書類をビニール袋や紙ばさみに綴じていたら、土砂が侵入して接着し再生不能でした。貴重品は金属製の箱に保管し、隙間を最小限にして土砂の侵入を防ぐべきです。
- 電気や水道が止まると水洗トイレが使えません。そこで、地震時に 10 万人が学校施設に避難したと推定します。地域全体でトイレが使用不能になる事態を考慮すべきです。
- 災害に備えた訓練が町内単位で必要です。私は三条市曲渕 2 丁目に住み、本原稿を書いている部屋から決壊後の仮堤防が見えます。隣の曲渕 1 丁目は昭和 35 年の洪水で破滅しました。スリ鉢状の地形で濁流の逃げ場が無かったためです。直後に排水ポンプを設置し訓練していました。昭和 54 年と昨年の洪水では無害でした。周囲の悲惨な状況から、そこだけ無害とは奇跡です。曲渕 2 丁目も昭和 54 年の洪水で一部が床上浸水し、排水ポンプが設置され、直後は訓練していました。最近は未実施で不手際を非難されました。
- 市役所の連絡が不適切で、高齢者が死亡したとマスコミが報じています。実は決壊部から 3 ～ 4 ｋｍ離れ、濁流の勢いが弱まった地区に死者がでました。その地区に濁流が流れ始めたのは避難指示の 4 ～ 5 時間で、徐々に床上浸水しました。町内で誰かが促せば、家財道具を 2 階に上げ、高齢者と共に避難する余裕はありました。

社団法人　日本翻訳連盟会員

ロイヤルリサーチ株式会社

代表取締役　河村 敏

〒173-0012　東京都板橋区大和町 10-11-1003

電話: 03(3964)5141　Fax: 03(3964)5071

E-mail: HDC00641@nifty.com

JES 技術翻訳学院

特許翻訳特別コース

定員 10 名、1 月・4 月・7 月・10 月の各月スタート

3 ヶ月間で 6 回、隔週水曜日 15:30～17:00 実施

株式会社 ジェスコーポレーション

〒220-0004 横浜市西区北幸 2-10-36 リクルートコスモスビ 8F

TEL: 045-313-3721　E-Mail: school@jescorp.co.jp

FAX: 045-314-3765　URL: http://www.jescorp.co.jp/gakuin

曲渕地区は老人会が熱心で、元気老人が病弱の老人を時々訪ねていました。避難指示がでると弱者を誘導しました。自主的に助け合う組織を築く重要さを認識しました。

- 堤防決壊部の近くでは、勤務先から帰宅し、家屋内を整備したり、愛犬と別れを惜しんで逃げ遅れ、ボートで救出された人がいました。42 才の女性は、なにを思い出したのか避難先から自宅に向かう途中で水死しました。この地区で営業中の 37 才の男性が水死体で発見されました。決壊部の近くでは中年に死者がでたのです。油断禁物です。
- 単身で自由な生活を楽しむ翻訳者もいますが、病気や災害時の連絡先や対策を幾重にも準備すべきです。破壊後の家屋の後始末で単身者が最も苦しんでいるのです。
- 対人関係が苦手で企業社会に馴染めず SOHO に転向した翻訳者が多いですが、近所づきあいを大切にしてください。
- 新潟の田舎と首都圏では環境が異なりますが、台風や水害は事前に準備できるので、参考にしてください。

●次に、話題を変えて年金について語りたいです。

私は会社員を経て翻訳業に転じました。当初は国民年金に未加入でしたが、後に遡って支払い加入しました。それでは不安なので、国民年金基金と民間の年金に加入しました。

65 才時の毎月の受取を 26 万円に設定しました。必要な積立金は月に 13 万円でしたが 20 年間続けました。昨年から、僅かですが受給者側になりました。昨今の年金事情から積立金が増え支給額が減少します。国民年金を除けばインフレ補償もありません。「デフレ克服」はともかく「インフレ待望論」を聞くと、年金受給者は身震いするでしょう。

ＳＯＨＯ 関連の集会に参加すると、SOHO に定年が無いからと漠然としているので驚きます。高齢になるにつれて、僅かなミスでも発注停止になり、新規開拓も難しいです。取引先の翻訳会社でベストスリーに位置しないと、次第に縁遠くなると覚悟すべきです。プロ野球の監督が若人の可能性に期待して選手起用することと似ていて安閑としておれません。

私は 20 年前に、アイビーエス社の桜井社長からインターネットで翻訳網を構築したい、第一号にと言われ始めました。桜井社長はSOHO翻訳に熱心で、システムの見学を同業者に奨めていました。多くの翻訳関係者が訪ねたことでしょう。

翻訳単価は安いがパソコンに慣れれば、能率が向上するから耐えてと言われました。金曜に依頼があっても月曜に納入するとホラを吹きました。翻訳品質は依頼者の好みもあり、ここで言及しません。緊急依頼の対応こそがSOHO の真価を発揮する時です。可能な限り応じてきました。

昨年の水害時に数件を放棄しました。以降の発注停止を宣告されても弁解できません。しかし「いつも緊急依頼に応じてくれてありがとう。再開可能になったら連絡して」と激励されました。

日本翻訳連盟が関係する講習会や講座に参加して翻訳技能を高め、緊急依頼の対応と廉価維持に努めることが、有力な災害保険で年金対策になると最近つくづくと感じています。

ALVIS GLOBAL COMMUNICATORS
株式会社アルビス
http://www.alvis.co.jp
募集
企画営業
チェッカー
翻訳コーディネーター
フリーランス翻訳者(英・中・韓 他)
特に半導体、センサー等の精密機器等
履歴書・職務経歴書送付(e-mail)可　翻訳者のみトライアル有
大阪オフィス
〒550-0011 大阪市西区阿波座1-13-15
クリエイトビル8F
Tel.06-6532-2367 Fax.06-6532-2369
東京オフィス
〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-32-22
大塚東池袋ビルディング7F
Tel.03-5960-0583 Fax.03-5960-0587
trans@alvis.co.jp

We Can
【業務内容】
・企画・評価・翻訳・執筆・編集・版下作成・印刷
・オンラインマニュアル・ビジュアルソフト開発
ソフトウエアエンジニアリング株式会社
Software Engineering Co.,Ltd.(ＳＥＣ)
〒153-0061 東京都目黒区中目黒四丁目6番1号 大和中目黒ビル5階
TEL:03-3716-6311 FAX:03-3716-6340
翻訳者・執筆等ドキュメンテーター応募専用フリーダイヤル
0120-086-644
ー高付加価値を持つドキュメントの提供を指向するー

ほんれんそう No.98

私の翻訳体験から（3）：翻訳ツールの変遷（上）　松下 巌

この28年間に翻訳のツールは様変わりしました。私が翻訳を始めた頃、翻訳者から納品されるのは、タイプしたものか手書きで、ネイティブ・チェッカーはそれに赤インクで手を入れていました。それが現在では、校正機能や修正箇所を記録できるワード・プロセッサや翻訳メモリーを持つ翻訳支援ツールが使われるようになりました。辞書も、持てば手首が痛くなるような大判の辞典から、パソコンに保管でき、複数の辞書を串刺しで引くこともできるようになりました。それどころか、インターネットで用語あるいは画像を検索して調べるのが当然のことになりました。

今回と次回は、翻訳ツールの変遷を振り返ってみたいと思います。ただ、私の体験したものに偏っていることをご承知おきください。

初めはタイプライター

翻訳のツールとして最初に使用したのは、やはりタイプライターです。手動のタイプライターは持っていましたが、翻訳を仕事にするというので電動タイプライターを購入しました。当時、タイプライターはタイピストが清書用に使用するだけで、会社が翻訳者のために用意するということはありませんでした。タイピスト用の機械を空いているときだけ使用できるという状況でした。

会社にあるタイプライターは、ほとんどがIBMのSelectricでゴルフ・ボール状のタイプ・エレメントをフォントや特殊記号のために交換できるものでした。中にはCorrecting Selectricというタイプミスを訂正ができる機械もありました。

初期のワード・プロセッサ（ワープロ）

タイプライターに代わって登場したのがコンピュータ技術を利用したワード・プロセッサです。業務用のシステム化したものから個人用のパソコン上で動作するものまであります。

Wang: 英訳は、海外向けマニュアル作成のための仕事が大部分で、納品は印刷用版下というのがほとんどでした。版下は、Wangのワード・プロセッサを使用して英文をプリントし、それにトレースした図を張り込むという方法で作成しました。

Wangへの入力は、タイプされ、チェッカーの赤字が入った英文を見てタイピストが行っていました。翻訳者用には端末が1台だけ共用するように提供されていました。

WordStar: 個人でも使用できるコンピュータとしてパソコンが発売されると、その上で動作するWordStarというワープロ・ソフトが現れ、一世を風靡しました。会社で最初にWordStarを使用したのはネイティブ・チェッカー達で、必要に応じて英文を入力していました。翻訳者も次第にWordStarを使用するようになってきました。

英文がパソコンで作成されていれば、そのデータをWangに移すことでタイピストによる入力が不要になるという発想から、データ移行を検討することになりました。しかし、当時は今のようなネットワーキング時代ではないので特別なインターフェイスを作成する必要がありました。WordStarは改行や改ページなどにドット・コマンド（タグに相当）が入っているため、それを除去することも必要でした。幸いネイティブ・チェッカー部隊のボスB氏が作成していたプログラムがあり、それを利用させてもらいました。そのプログラムは**TurboPascal**で作成してあり、そのコードを教えてもらったのが、私がTurboPascalでいろいろなプログラムを作成するきっかけになりました。

WordStarのデータがWangに移るとなれば、翻訳者からの納品も紙にプリントしたものだけでなくフロッピー・ディスクも一緒にということになり、さらに、ワード・カウントもパソコンで行うように発展しました。この**ワード・カウント・プログラム**もTurboPascalを使用して作成しました。

特許英和講座

特許翻訳の第一歩は良い英文明細書を翻訳すること
実際の英文明細書を用いた演習
特許翻訳環境や実務への導入も講義
英訳への応用も視野においた授業構成

講師　佐藤　亜古　氏（フリーランス翻訳者）
受講料　8回分一括 お一人様　100,000円（消費税・テキスト代込）
＊JTF会員の方は5%割引となります
会場お申込　(株）知財翻訳研究所　知財アカデミー事務局（担当・平田）
〒160-0022　東京都新宿区新宿１－１－７　コスモ新宿御苑ビル
TEL03-3225-1931 FAX03-3225-1933　e-mail academy@chizai.co.jp

【日程】
2005年4月9日から6月4日までの4月30日を除く連続土曜日（全8日）
【時間】 13:30-16:30
【内容】
特許明細書概説、特許翻訳に役立つ資料（日本語）の紹介、特許翻訳に役立つCD-ROMおよび関連ツール、特許翻訳に役立つサーチの仕方、関連ホームページおよびツール、特許翻訳に役立つ外国語文献の紹介、特にクレーム翻訳に役立つ文献の紹介、慣例的な表現の解説、その他
【定員】12名（原則先着順）

Chizai Academy
●詳細は
株式会社知財翻訳研究所
www.chizai.co.jp

WordPerfect: WordStarの2年後に発売されたパソコン用のワード・プロセッサで、WordStarより機能が多いということで使用する翻訳者が出てきたため、それ用の**タグ削除プログラム**と**ワード・カウント・プログラム**も作成しました。このプログラムのタグは相当に複雑で、解読するのに非常に苦労しました。

日本語ワード・プロセッサの出現

英文については、ワード・プロセッサの利用で電子化が進み、省力化も図れましたが、日本語は清書するツールとしては和文タイプしかありませんでした。

OASYS: 日本語を英文と同じようにコンピュータで扱いたいという努力の結果日本語ワード・プロセッサが誕生しました。会社でも日本語ワープロOASYSが導入されました。導入後しばらく、私は昼休み、夕方の休み時間に親指シフト・キーボードを練習して、一応マスターしました。

VJE: ワープロではありませんが、パソコンで日本語を入力するために使用する漢字変換ソフトです。漢字変換ソフトでは、現在、ジャストシステムの**ATOK**とマイクロソフトの**IME**が有名ですが、私が愛用しているのはVJEです。当時、富士通のパソコンでは親指シフトの漢字変換ソフト**OAK**も使用できましたが、それには親指シフト・キーボードが必要でした。購入した中古のFM-16 β HD ⅡがJISキーボード・モデルでしたので、漢字変換ソフトとして買ったのがVJEとの出会いでした。

親指シフトも良いのですが、アルファベットが混在する文章を書くとき日本語モードと英語モードを切り替えるがめんどうです。VJEではアルファベット（ローマ字）を入力してから、変換キーを押せば日本語に変換するし、Enterキーを押せばアルファベットのまま確定するので、モード切り替えの必要がありません。今ここで書いているような文章を書くのに便利です（ATOKがどうかは使ったことがないので知りません）。

パソコンの利用（ワープロ以外）

パソコンはコンピュータですから、ワープロ以外にも翻訳に利用できます。市販のソフトだけでなく、プログラムも開発して能率を上げるのに利用しています。

用語データベース：翻訳には、翻訳対象とする文書に関連する専門用語の辞書が必要です。各種の専門用語集が多数市販されていますが、実際に作業してみるとそれでは不十分なことがすぐ分かります。そのため、独自の専門用語辞書を作成する必要がありました。**dBASE**を利用して用語データベースを作成しました。

読み付けプログラム：当時は、翻訳者に用語集を提供するのにプリントを使用していたので、アルファベット順または五十音順に配列する必要がありました。英語では大きな問題はありませんが、日本語では用語に読みを付ける必要があります。そのためのプログラムをTurboPascalで作成しました。

チェック・プログラム：訳文にはカタカナ語やアルファベットがよく出てきます。依頼元によってカタカナ語の表記規則やアルファベットの扱いが異なります。末尾の長音符号の有無、英語が2語の場合の書き方が指定されます。「ワード・プロセッサー」、「ワード・プロセッサ」、「ワードプロセッサー」、「ワードプロセッサ」、「ワード プロセッサー」、「ワード プロセッサ」の一つが正しく、その他は誤りとなります。多数のカタカナ語を目視でチェックすることは不可能ですので、**カタカナ・チェック・プログラム**を作成しました。アルファベットと日本語の間の間隔も、空けないか半角スペースを入れるかが依頼元で異なります。これも**スペース・チェック・プログラム**で確実に検出するようにしました。

副詞に漢字を使うかどうかも依頼元によって違います。たとえば「極めて」、「既に」、「全て」、「直ちに」、「例えば」といった表記は使用しないという依頼元もあります。また、算用数字は必ず半角にすると規定している依頼元もあります。この種のチェックは**PowerFinder 1000**という全文検索ソフトで行っています（現在は市販されていません）。依頼元が使用を禁止している表現、用語を登録しておけば、指定したフォルダの中の文書すべてをチェックして禁止表現、禁止用語を検索してくれます。

次回は、私はほとんど使っていませんが、機械翻訳、翻訳支援ツールを取り上げます。

ほんれんそう No.99

テクニカルライティングの原則（2）　高崎 栄一郎

● TW とマニュアルの関係

テクニカルライティング（TW）またはテクニカルコミュニケーション（TC）の対象文書として、マニュアルしか頭の中にない人がいます。マニュアルは重要な技術文書です。とくに IT のハードウエアやソフトウエアの場合は、マニュアルは商品の一部であり、製品の機能や品質が問われるのと同じように、マニュアルの質や読みやすさが問われます。このような企業で、マニュアルを主体としたライティングに従事している人が、テクニカルライターと呼ばれています。

TW の対象は、マニュアルだけではありません。私はエンジニアリング会社で働いた期間が長かったのですが、エンジニアリング産業のような受注産業にとって重要な技術文書は、取扱説明書だけでなく、受注のための提案書、受注・発注のための技術仕様書もあります。私の場合は、報告書と提案書を中心として、TW/TC を勉強しました。

● TW と TT の違い

TW とテクニカルトランスレーション（TT）の違いについて、Society for Technical Communication (STC) の機関誌に掲載された論文 [1] を参照しながら考察します。著者 M. I. Hallman は、1990 年当時、米国 Siemens 社の Chief Translator でした。

■作業の内容

TW では、ライティング以外の作業が 80% を占める。TT では、完成原稿を受け取って翻訳を始めることが多く、作業内容はほとんど翻訳である。

この論文が書かれた 1990 年当時にくらべて、現在のマニュアルの翻訳は、ローカリゼーションの一部として行われることが多いので、TT といえども翻訳作業以外の要素が入っています。

■作業期間

TW は数週間、数週間から数ヶ月の単位で作業するのに対し、TT の作業期間は文書量によって支配される。

TT の場合は、文字数や語数を数えることによって、翻訳に要する時間を算定し、納期を設定しています。とくに社外翻訳においては、文字数や語数を基準として、翻訳料金を設定しています。

■作業上の視点

TW は文書の目的や読者を強く意識しているのに対し、TT は基本的には原文の執筆者に目を向ける。

TW/TC の教科書の多くは、目的と読者の分析を重視しています。ライティングの目的と読者を明確にし、これを明示することも重要です。翻訳の場合、翻訳者は原文に忠実であることが最重要と考えます。すなわち原文の執筆者に目を向けます。もちろん翻訳者も、文書の目的は何か、読者がだれであるかを気にしています。翻訳文の文体が「です、ます」調か、「である」調かという議論は、翻訳においても読者を意識していることを示しています。

以前私は、翻訳者がクライアントと直接接触することが強く奨励される環境にいました。このような環境では、翻訳者がクライアントに翻訳の目的や読者について説明を受け、質問し、納得しながら翻訳していました。クライアントと翻訳者の間の直接的な接触がない場合は、翻訳の目的や読者に関する情報は、翻訳会社がクライアントから聞き出して、翻訳者に伝えるべきでしょう。

● TW と TT の接点

TW と TT は異なる概念です。根本的な違いは、前者が創造的であるのに対して、後者は原文に依存するので、創造的ではない点にあります。しかし、翻訳にも創造的な性格があります。

翻訳は、原文を解釈するという作業と、翻訳文を創出するという作業の 2 段階から成り立っています。原文の解釈は、単語から単語への解釈ではなく、センテンスからセンテンス、テクストからテクストへの解釈であるので、翻訳者にも主体性があります。第 2 段階である翻訳文の創出は、きわめて主体的であり、創造的でもあります。この作業は、ライターの「創造的なプロセス」の最後の仕上げ段階に類似していると思います。

TW/TC の技能を修得して、仕事の幅を広げたいという意欲が翻訳者にもあります。翻訳者がライティングの一部を担う可能性をいくつか挙げます。

①原文の要点のみを翻訳することを求められる場合があります。これは以前から存在している「抄訳」であって、実際的で有効なサービスです。「解釈」の段階において、原文から重要な情報を抽出する能力が必要です。

②原文で要点のみを与えられ、これを加工して翻訳文を創出する作業もあります。この作業を行う翻訳者には、コンテクストを十分に理解し、効果的な文書を作成する能力が必要です。通信文やプレゼンテーション資料の作成に有効です。

③論理的、文化的、ときには技術的な誤りが原文に含まれている場合がありますが、これに気付いた翻訳者が、訂正を申し入れることは推奨すべき行為ではないでしょうか。

④原文執筆者が、たとえ原文から逸脱しても、より質の高い翻訳文を求める場合、翻訳者は作文技術を駆使して、書き換えを提案することもできるでしょう。これには、原文執筆者と翻訳者の間の密接なコミュニケーションが存在する必要があります。社内翻訳者の多くは、このような立場にあります。

[1] M.I. Hallman, “Differentiating Technical Translation from Technical Writing,” Journal of the Society for Technical Communication 3/4 1990

JTF 西日本セミナー報告

****
平成 16 年度　西日本支部第 4 回セミナー＆交流会
【開催日】平成 16 年 12 月 4 日
【開催場所】ホテルトーコー新大阪
【講師】井口 耕二氏（産業翻訳者、JTF理事）
****

「高品質追求を第一に、量的向上も目指す」翻訳作業は、大きく二分することができる。
①人間よりもコンピュータにやらせたほうがいい部分
②人間がやらなければならない部分
このふたつを上手に切り分け、「コンピュータにやらせる部分」をうまくに処理することができると、質・量の同時向上が可能となる。
頭より手が意味を持つ部分、つまり入力、辞書・用語集の検索、機械的な置換などは、コンピュータにやらせたほうが、単純ミスの削減にもなるし、時間もかからない。そして生まれた時間的余裕を、手よりも頭が意味を持つ（判断が必要な）部分、つまり訳文の案出、訳語適否の判断、訳語を統一すべきかどうかの判断など、人間がやらなければならない部分へ振り分け、品質向上に利用することができる。

井口講師のセミナーは 2 回目ですが、

今回は「コンピュータにやらせたほうがよい部分」を、より具体的にパソコン画面での説明をしていただきました。

1. ハードウエアの選び方：高速なマシンは不要だが、メモリだけはたくさん搭載すること。等
2. OS 設定やドライブ割り当ての方法：お気に入りやショートカットを工夫し、少ない操作で目的のファイルやフォルダに到達できるようにしておく。バックアップが必要なファイルは 1 箇所にまとめておく。等
3. 入力の工夫：全角・半角の区別がつくように等幅フォントを使いプロポーショナルフォントは使わない。等
4. 検索・調査などの周辺ツール：辞書プラウザ（DDWin や Jamming）、grep ソフトやバックアップソフト等
5. エディタやワープロソフトの使いこなしかた：軽くて反応が早いので、文字入力についてはエディタが優れている。Word などを多用するとパソコンがフリーズすることも多いので、文字修飾部分だけワープロソフトを使う。等
6. 正規表現の方法：例えば、数字と単位の間の半角をとる方法等
7. マクロやスクリプトによる機能実現：今まで何回も叩いて行っていたことが、キー一発でできるようになるが、プログラミングの知識が必要。参考書などで勉強する必要がある。わからないことがあれば、翻訳フォーラム（http://fhonyaku.jp/）などで聞くとよい。等
8. 翻訳支援ツールについては、利点もあるがその功罪も大きいので、用語集による一括置換を使った翻訳作業が一番おすすめとのこと。但し、文脈によって大きく変化する用語を用語集に登録しておくと、誤訳につながるので、基本的に、専門用語・固有名詞・クライアント固有の用語だけを登録する。

パソコンがよくおわかりになっていらっしゃる方は、目からうろこという感じで、ぐんぐん引き込まれていかれた様子がよくわかりました。パソコンに詳しくない方は、途中からなにかよくわからないけど、でもすごいな、という感じでした。でも質疑応答で、「どれ位効率が上がりましたか？」という質問に、「確実に 3 割はアップしました。」という答えで、皆様ご納得。「PC をあれだけ効率よくつかえれば、きっと翻訳作業も 3 割アップするだろうな、すごい!!」ということで、皆様お帰りになってから、各々のレベルで作業環境をチューンアップされたのではないかと思います。

交流会は、いつもはお一人でお仕事をなさっておられる翻訳者の方々も、同業の方とお話しできて良かったと、たいへん好評でした。

報告者： 礒野 由美子
（株）翻訳センター 企画室

お待たせしました

トランスマートは翻訳会社様向けに新しいサービスを開始いたします。
優秀な人的リソースの共有を目標にサービスを開始してから 3 年。
翻訳文の一次品質がプロジェクト全体のコストを大きく左右するプロの現場にも自信を持って
ご紹介できる優秀な翻訳者が集まりました。

http://www.trans-mart.net/transagt/index.html

TRANSMART
トランスマート株式会社
株式会社ヒューコムは
トランスマート株式会社
に社名を変更しました。
〒160-0022
東京都新宿区新宿1-13-11 シブヤビル2F
03-5363-0370
info@trans-mart.net

JTF 翻訳環境研究会報告

****

平成 16 年度第 7 回 JTF 翻訳環境研究会
平成 16 年 12 月 7 日（火）14:00 ～ 16:40
【開催場所】翻訳会館
【テーマ】作業翻訳：翻訳者が創造する翻訳システム
【講師】井口 耕二氏（産業翻訳者、JTF 理事）

****

●あなたの翻訳環境は？

本研究会タイトルにもなっている「翻訳環境」について、じっくり考えてみた事がおありだろうか。そもそも翻訳環境とは何を指すのだろう。マシン、ソフトなどの機器類、作業場の広さや作業時間などが思い浮かぶかもしれないが、翻訳作業を支える要素として考えると、それらに加えて原稿、ファイル等の管理、アプリケーションツールの使いこなしの程度やデスク、椅子まで含まれるのかもしれない。翻訳そのものの技術技巧ではないが、翻訳のよしあしを左右するかもしれない大切なものである。

技術・実務翻訳者として活躍されている井口耕二氏を講師に迎えた第七回翻訳環境研究会では、それら作業環境をよりステップ・アップするノウハウを聞くことができた。椅子（体調管理の面からも重要）に至るまで環境を整えている氏のデスク回りの写真も公開された。会場では、参加者から翻訳作業の効率アップ“ワザ”に関する実際的な質問も多く出て、作業環境に対する関心の高さがうかがえた。

●機能的な作業の流れ

「高い品質、そして量的向上」— おそらくどの翻訳者も目標とすることだが、それには機能的な作業形態を作り出すことが不可欠だろう。円滑な作業の流れは品質を高める重要な作業により時間を振り分けることを可能にし、効率アップにもつながるのである。翻訳の作業は、シンプルに考えると〈切り分け〉と〈処理〉の二つに分けられるが、入力、辞書・用語の検索・置換などコンピュータを使う部分と、訳文の案出・適否の判断など翻訳者自身が取り組む部分を適切に切り分けるならば質・量の同時向上が可能となる。処理の部分については、機能的なソフトやツールなどをうまく使いこなすことにより作業の流れがスムースになる。

●道具を上手に使う

日頃使い慣れている道具の機能について考えることは、（よほど暇がある時か目の前の仕事に行き詰った時でない限り）ほとんどないのではないだろうか。エディタやワープロソフトなどのアプリケーションにも、便利な機能がまだ眠っていることがある。ショートカット、マウス操作、高度な編集機能などをより使いこなすために、情報交換やヘルプを時折参照してみるなど、使い方を進化させるための意識的な努力が必要だろう。ちょっとした事のように思われがちだが、気を付けないとミスやトラブルを招く恐れもあるフォントやＩＭＥなど表示方法を必要な状態に、また使用状況に合わせてカスタマイズすることで、快速・快適かつミス防止につなげることができる。

原稿や資料など限りなく蓄積していくデータも、機能的に管理することで使い勝手がよくなる。ファイル、フォルダ名の統一、一貫性あるルールで整理するならば、必要な情報をすばやく取り出すことができる。また、納期・内容・状況別にまとめて案件をしっかり把握する工夫もプロとして必要だろう。辞書ブラウザ、電子辞書、一括検索、タグブラウザなど周辺ツールは便利で種類も色々あるが、むやみに多用するのではなく、自分の作業タイプに合ったもの、かつ機能性アップに貢献するものを選んで活用することで操作の円滑化が実現する。

●応用編にも手を伸ばす

高度な操作が高い壁のように見えて、遠ざけている場合があるかもしれない。しかし一度超えてしまえば、それはもう高いと思わなくなり、自分の操作基準も上がっていくだろう。まさに効率化の道具と言える高機能エディタ、ワープロソフト、またマクロやスクリプトはそのようなものかもしれないが、実現できる機能は大きい。訳語・用語・表現統一の手間を大幅に省き、正規表現などの一括検索・置換作業にも威力を発揮し、複数操作をキーひとつで可能にする。幸いにも、現在インターネットサイト上にはプログラミングに関して多くの助けになる情報があるので、その習得、活用は比較的容易になってきているのかもしれない。

翻訳者が自ら創り上げる翻訳環境。翻訳そのものを支えながらも、決して補助の位置にはとどまらない重要な要素なのである。

報告者：大西 詠子（個人翻訳者、JTF翻訳環境研究会書記）

LDS の翻訳者は、マニュアルからローカライズ用そして書籍や専門誌の翻訳まで幅広くカバーしながら、その高い品質によって顧客の絶対的な信頼を得ています。翻訳の第一線で活躍する 2 人の LDS 翻訳者が、新鮮な素材を使って、オンラインでお教えします。顧客に評価される翻訳技術を身につけてください。

■ オンライン講座「IT 書籍を翻訳する」

■ オンライン講座「実践ローカライズ講座」

4 月 10 日 前期開講

お問い合わせは … 03-3208-6431　詳細ならびにお申し込みは … http://www.lds.co.jp/school/

LDS 株式会社 ランゲージ ドキュメンテーション サービス　LDS オンライン講座事務局
〒160-0022 東京都新宿区新宿 6-29-8 新宿福智ビル 5 階

****
平成16年度第8回JTF翻訳環境研究会
平成17年1月11日（火）14:00～16:40
【開催場所】翻訳会館
【テーマ】経営管理：収益改善のための具体的な方策
【講師】阿部 淳氏（(株)エイブス代表取締役、JTF理事）
****

●市場の現状と傾向

企業の国際化が進む中、翻訳の需要は、勢いよく急伸する分野から場合によっては消滅する分野まで様々な変化を見せている。また、低価格を第一に求める傾向が強くなってきている。会社であれ個人であれ翻訳を提供する側にとって、これらの傾向は品質を高いものに保ちながら価格面でもアピールすることが大変厳しい状況だ。第8回環境翻訳研究会は、株式会社エイブス代表取締役社長でＪＴＦ理事でもある阿部淳一氏を講師に迎え、収益改善のためにどんな方策があるのか、同社での具体的な事例に基づき、参加者との討議の形で扱われた。

●単価と質の厳しいバランス

業界は厳しい状況にあるものの、現在市場にはかなり多くの翻訳会社が存在している。価格勝負の傾向になってしまっているのは、ある程度品質が一定化しているという事ではないのか。内容が易化しているのでないとすれば、その理由は翻訳ツールにあるのだろう。ツールの性能向上は、ある程度の翻訳レベルを保ちながら生産力アップする事を可能にした。そこで判断の目が価格へと移ったのだ。しかし価格の叩き合いが進むと、当然ながら利益率は限界に達する。その競争の結果、業界全体として苦しい状態となるのではないか。そのような業界の中において収益改善、つまり売上を増やすための最善の方策は何か。その模範的回答である「新規の顧客を開拓・獲得し、一方でコストを削減すること」を阿部氏は実際的な視点で更に分析した。費用の削減には限度があり、そればかり追い求めていては行き詰る。また、顧客数を増やすことや、リピート客を維持する品質を保つにもコストは発生してくる。低価格に応えることを主眼としながら高品質も同時に保証するのは、理論的に無理をしているといえるのかもしれない。

●問題を打開する具体策

どこに解決策を見出すことが出来るのか。阿部氏の考えるこれからの方向はこうだ。「品質と価格比例のルール」を通すこと、つまり売上を拡大するために受注単価をアップするとしても、単なる単価アップではなく、単価と質を対応させるというルールである。業界全体にも翻訳という作業の性格をより正確に認識した対応、「価格と品質・責任の比例」、言語変換にプラスされる技術的要素の重要性とそれに対する支払い面での評価が必要とされるだろう。

また、売上アップとコストダウンの狭間で疲弊した人材が会社から流失する事態を防ぎながら生産性も高める方策として、社内工程を変革する案が紹介された。生産量と効率重視型のベルトコンベア方式作業からセル方式へのチェンジである。受け持つ作業範囲を広くすることにより個々の社員にやり甲斐と責任感を持たせ、会社としても単価圧縮が可能になり、ひいては生産性アップにつながるという仕組みだ。そもそも翻訳作業は機械的ではなく、職人作業的な性質であることを考慮しても、セル方式に向いていると言える。個人翻訳者に対しても「受け持ち範囲を広げるセル方式」は適用できる。翻訳スキルに技術知識への関心および情報収集力をプラスして、「付加価値をつけた翻訳」を提供できるようになる。そのような守備範囲の広い翻訳者の需要はますます高まっており、付加価値を付けるための時間を取り分ける余裕を持った翻訳者が必要とされている、という意見も出た。参加者全体に関心の高いテーマを活発な議論によって考慮することができ、大変有益な研究会であった。

報告者：大西 詠子（個人翻訳者、JTF翻訳環境研究会書記）

○次回「第10回JTF翻訳環境研究会」のお知らせ
日時：3月15日（火）14時～16時40分
テーマ：先進市場：日本市場向けウェブページ制作
講師：島田 憲治氏（バーチャルコミュニケーションズ(株)代表取締役社長）
定員：40名（変更あり）

1～2日の短期集中講座
「オープンセサミ」開催中
翻訳業界第一線で活躍中の方々を招いての特別講演から、
スキルアップ講座まで、全31講座を開講。
特別講演
3/12（土）「Web配信ニュースの翻訳事情」
15:30～17:00 講師：多々良 和臣
3/26（土）「字幕翻訳の舞台裏」
13:00～15:00 講師：林 完治
「ファンタジー文学ア・ラ・カルト」
15:30～17:00 講師：西村 醇子
詳細は… http://www.fellow-academy.com をご覧ください。
1975年創立 翻訳の専門校
フェロー・アカデミー
お問い合せはフリーダイヤルかE-mailで
E-mail:info@fellow-academy.com
〒107-8520 東京都港区赤坂 8-5-6 翻訳会館（地下鉄「青山一丁目」駅より徒歩3分）
フリーダイヤル 0120-024240
［受付時間：平日9～21時／土曜9～17時］

進化する電子辞書　－ポップアップ型辞書の新動向－

翻訳者　　加藤 千秋

パソコンでおこなう辞書検索は、形状によって２種に大別できます。検索語にカーソルを置くなど特定の動作をすれば小さな辞書窓がポップアップして語義を示すものと、辞書ブラウザを画面上に比較的大きく常駐させる形式のもの。串刺し検索が可能なブラウザの中には、両方に対応したものもありますが、独自規格のポップアップ型辞書ソフトの中には、JammingやDDWinのような多彩な検索機能で翻訳の主力とはなりえぬものの、一味違う面白さを備えたものもあります。

■Babylonに追加された電子辞典

イスラエルの多言語辞書Babylon（バビロン）は典型的なポップアップ型の辞書ソフトです。昨年５月に登場したBabylon-Pro 5.0（税込 DL 価格 7,245 円）のシリーズでは、Babylon辞書に大修館その他の出版社系辞典コンテンツを加えた製品も発売されました。

- Babylon-Pro 5.0　ジーニアス 明鏡国語辞典セット 11,550円
- Babylon-Pro 5.0　知恵蔵 2004 セット 9,345 円
- Babylon-Pro 5.0　マイペディアセット 9,345 円

上記のほか、会社四季報や南山堂医学大辞典第18版も別料金で搭載可能。単語からのポップアップ表示のほか、通常のブラウザ風に任意の語を検索窓に手入力する辞書引きもでき、拡張性に富んだ辞典機能のほか、通貨・度量衡・時差計算機能などが強力です。

■ATOKと連携する電子辞書・辞典

本来は辞書ブラウザとは異質のものであった日本語入力支援システムにおいても、特定分野の専門用語変換を効率化するための辞書のみならず、語義や用法まで踏みこんで示してくれる辞典を連携させて機能強化を図る動きが出ています。

ジャストシステムからはATOK16時代に充実した変換支援用各種専門用語辞書や共同通信社記者ハンドブック第９版に加え、昨年はATOK17と連携する明鏡国語・ジーニアス英和/和英辞典や日経パソコン用語辞典、ぎょうせい公用文表記辞書などが発売され、今春はATOK 2005（通常版7,140円/DL版6,615円）に追加して組み込める16種類の連携電子辞典や連想変換辞書、専門用語変換辞書が登場しました（価格はジャストシステムのMyShop価格［税込］。新タイトル［※］や大幅改訂のあったものを中心にご紹介します）。

●連想変換辞書・連携電子辞典

- ATOK連想変換辞書「角川類語新辞典 for ATOK」※通常版5,040円/DL版3,990円
- ATOK 連携電子辞典「知恵蔵 2005 for ATOK」DL版2,993円
- 「百科事典マイペディア for ATOK」※DL 版 2,100 円

●専門用語変換辞書

- 「共同通信社 記者ハンドブック辞書 第10版 for ATOK」通常版6,090円/DL版5,040円
- 「NHK新用字用語辞書 第３版 for ATOK 2005」※通常版 5,040 円 /DL 版 3,990 円
- その他、「医療辞書 '05 for ATOK」（通常版 10,710 円/DL 版 8,925 円）、「新・東洋医学辞書V4［ユニコード辞書］for ATOK 2005」（DL版8,925円）「有斐閣法律法学用語変換辞書 V2 for ATOK 2005」（DL版 5,250 円）など多数。

独立した辞書ブラウザではなく、ATOKの入力・変換システムと連携して動くという動作制約上、電子辞典にはBabylonとはまた異なる長所短所が混在しています。タイトルによっては、ATOKに登録されていない難読語は単語登録しないと辞書引きできない場合があるなど、辞典としてEPWINGと同等の機能を期待するユーザーには若干惜しまれる部分もありますが、商品特性を理解して使えば実に魅力的な内容のものも散見されます。専門用語変換辞書のほうは必ずしも語義を備えてはいませんが、一部に用語解説や対訳を付記したものもあります。詳細はメーカーHPをご参照ください。

■校閲支援ツールとしてのポップアップ辞書

なお、上記のうち共同通信社記者ハンドブックとNHK新用字用語辞書は、単語入力→変換候補確定の作業にあわせてポップアップし、報道関係のプロが文書を書く際の指標を示してくれるものです。前者は３月発売予定の書籍版『記者ハンドブック 第10版』に準拠し、旧国語審議会の表外漢字字体表と人名用漢字を完全収録したうえ外来語や略語表なども大幅に見直したもの。後者は約35,000語収録の専門用語変換辞書で、NHKの基準に沿った表記や難解語の指摘・言い換えを参照できます。宅急便→宅配便など、固有名詞を普通名詞に置きかえる支援機能も、いろいろな分野の翻訳者に重宝と思われます。

■関連URL

アルテック・エーディーエス（Babylon発売元）http://dn.altech-ads.com/babylon/index.htm

ジャストシステムhttp://www.justsystem.co.jp/news/2005f/news/j01122.html

（Babylon、ATOKの連携ソフトには多数ありますが、代表的新製品のみを列挙しました。）

今日も、人が、財産。

十印ヒューマンフロンティアは、2月1日をもって十印と統合し、十印と社名変更しました。良い仕事は、良い人材を育てます。翻訳、通訳の人材サービスで豊富な実績を誇る十印は、そう考えます。あなたの才能がイキイキと輝ける機会を提供することが、わたしたちの使命であり、ビジネス力であると考えます。派遣という事業の主役は「人」です。主役であるあなたの希望・実力・適性を的確に把握し、あなたにとって理想的な職場を紹介します。十印で、ワンランク上の仕事を選んでください。

あなたの仕事は、ここにあります。

派遣スタッフ募集
■翻訳者 ■通訳
■テクニカルライタ
■プロジェクトマネージャ
■バイリンガルセクレタリ

登録スタッフを随時募集中
www.to-in.co.jp

一般労働者派遣業（般13-040647）／有料職業紹介業（13-04-ユ-0518）

Phone 03-3455-8861　Fax 03-3455-8863　e-mail info-global@toin-hf.com

株式会社 十印［ヒューマンリソース］
〒105-0014 東京都港区芝1-12-8 第２十印ビル

TOIN

翻訳者のための書誌　第2回　和文英訳ではない“翻訳”のために

翻訳者　　曽我 邦裕

前回（2004年7月／8月号）は「英文和訳ではない“翻訳”のために」と題し、英語から日本語への単なる置き換えではない“翻訳”を実践するための本を紹介しました。今回は逆に、日本語から英語への“翻訳”のための書籍を紹介します。

そうした本の嚆矢と言えるのが、マーク・ピーターセン『日本人の英語』（岩波新書）です。ピーターセン氏は、日本人にありがちな“直訳”をこの本で指摘し、例えば以下のように校閲しています。

誤　The cranes were observed by binoculars. (P57)
正　The cranes were observed with binoculars.
前者では「鶴は双眼鏡“に”観察された」、すなわち「ある双眼鏡の器具自体が意識的にその鶴を観察していることになる」。“The cranes were observed (by us) with binoculars.”が通常の英語となる。

冠詞、単数と複数、副詞などに関しても論じています。ただエッセイ風の読み物であるため、体系化されていないのが残念なところです。

英語の用例を体系的にまとめたものとしては、ジェームズ・T・キーティング『英語正誤用例事典』(The Japan Times) が挙げられます。35年間にわたって英文編集校正に携わってきたキーティング氏が、ノンネイティブが陥りやすい思考の罠から抜け出し、正確で簡潔な英文を書く方法を伝えています。スタイルガイドも充実しており、必携の一冊と言えるでしょう。具体例として以下のものがあります。

it (P32)
It is considered..., It was thought...などの表現は避けたほうがよい。We consider..., I thought...のように人を主語にすることで、よい文になる。
Weak: It is considered possible that the company will close.
Better: We consider it possible that the company will close.（その会社が解散になる可能性があると考える）
さらに次のように文を短くすると、よりよくなる。
Better: The company may close.（その会社は解散する可能性がある）

×final completion/outcome (P206)
finalは不要。completionやoutcomeにはすでにfinal（最終の）という意味が含まれている。
Weak: My TV broke just before the game's final outcome.
Better: My TV broke just before the game's outcome.（試合の最終結果が出る少し前にテレビが壊れてしまった）

実務翻訳の現場に即したものとしては、佐藤洋一『技術英文の正しい書き方』（オーム社）[*1]があります。現役の実務翻訳者である佐藤氏が経験に基づいて書いたもので、実践的な内容となっています。

作業ファイルは出力先ファイルとして作成されるファイルであり、それはあるファイルを出力先ファイルとして開いた時点で「作成された」とみなされる。(P34)
好ましくない英文例　A work file is a file which is created as an output file and it is considered to be “created” when a certain file is opened as an output file.
正しい英文　A work file is considered to be “created” when it is opened as an output file.
キーポイント　簡潔な英文を書くコツ→冗長表現を避けて1センテンスを25ワード以内にまとめる。

インターネットに接続すれば、e-ビジネスへの第一歩を踏み出すことができる。(P38)
好ましくない英文例　If you connect the Internet, you can start the first step of the e-business.
正しい英文　An internet connection provides a first step toward the e-business world.
キーポイント　条件的ニュアンス（もし～であると）を表現するコツ→不定冠詞を利用する。

その他、専門寄りの書籍として、原田豊太郎『理系のための英語論文執筆ガイド』（講談社ブルーバックス）、原田豊太郎『間違いだらけの英語科学論文』（講談社ブルーバックス）、根岸裕『和英翻訳ハンドブック』（大修館書店）などがあります。

[*1] この本に出てくる例文の多くは、佐藤洋一〔編著〕『科学技術英語活用辞典』（オーム社）に収められています。

* 本稿で紹介している書籍は、本稿担当者のホームページ“On the Backstage翻訳者のための情報源”でも紹介しています。URLはhttp://home.att.ne.jp/blue/onback/index.htmlです。

明日も、人が、財産。

十印の中心事業は、海外のソフトウェアを「ローカライズ」すること。各国のソフトウェアを、文化の異なる日本という地域環境へ最適化するために必要な仕事は、多種多様を極めます。
そのため、ひとつのプロジェクトを完成させるために必要な才能もまた、多種多様なのです。深度の深い専門知識から、俯瞰的視野でプロジェクトをコントロールできる能力、そしてアイディア鋭いデザイン能力。十印の仕事が必要としている才能は膨大です。
仕事は、あなたを必要としています。

募集　□翻訳者（在宅）□翻訳QA □ローカライズエンジニア
□テスター（エンジニアリング）□プロジェクトマネージャ

応募方法　十印のwebページにアクセス後、応募フォームに記入してください。
志望職種等を明記してデータを送信ください。
弊社担当者よりご連絡いたします。※翻訳者および翻訳QA志望者には、トライアル受験が必須。
www.to-in.co.jp

Phone 03-3455-8715　e-mail hrs@to-in.co.jp

株式会社 十印［ベンダーリレーションズ］
〒105-0014 東京都港区芝1-12-8 十印ビル
TOIN

法人会員プロフィール

株式会社インターメディア

〒108-0023
東京都港区芝浦 2-14-13　MCK **芝浦ビル** 4F
TEL : 03-3453-1125
FAX : 03-3453-0966
E-mail: i-media@honyaku.co.jp
URL：http://www.honyaku.co.jp
（企業ホームページ）
URL：http://www.transassist.com
（TransAssist**事業部）**

●キーワードは「翻訳の生産性の向上」

翻訳業界では、低コスト、短納期、高品質に対するクライアントからの要求が年々厳しくなり、これにどう対処するかが最大の課題になっています。今や、景気がどれだけ上向きになったところで、この 3 つの要素に対する要求は軽くなるどころか、さらに厳しさを増していくでしょう。この3要素を同時に解決するキーワードが「翻訳の生産性の向上」です。生産性が上がれば、一般的に短納期化と低コスト化を図ることができます。しかし、生産性を上げることと品質を高めることとは一見相反する関係です。しかし、これを同時に可能にするひとつの手段がメモリ型翻訳支援ツールの導入です。

●これからは「翻訳ワークフロー」という考え方

メモリ型翻訳支援ツールの導入がここ数年加速化しています。また、一方で、自動翻訳ソフト（機械翻訳ソフト）の導入も活発です。これには、翻訳会社および翻訳者が何らかの翻訳支援ツールを使って翻訳の効率性を上げたい、ひいては生産性を上げたいという認識が高まっていることと、さらに重要な点として、クライアント、翻訳会社、翻訳者の 3 者間で翻訳ワークフローが確立しつつあるという背景があります。好むと好まざるとにかかわらず、翻訳会社と翻訳者はこれから自らのためとクライアントのためにどれほど効率的な翻訳ワークフローを確立していけるかが大きな課題になっています。

●もうひとつ、「ナレッジマネージメント」という考え方

最近、「ナレッジマネージメント」という言葉をよく耳にします。このシステムが注目を集めている理由には、社員個人の知識を会社全体の知識としてプールしておきたい、そして他の社員にも有効活用させたいという背景があります。実は、同じような背景が、クライアントと翻訳会社にあります。高品質な翻訳という資産をプールし、それを有効活用したいという考え方です。

●メモリ型翻訳支援ツールによる環境変化への対応

このような環境変化に対応するために、各種のメモリ型翻訳支援ツールが開発されています。弊社においても、2 年以上前から日本在住のアメリカ人フリーランス翻訳者（GITS 社の代表ライアン・ジンストロム氏、現在、当社の技術顧問でもある）と共同でメモリ型翻訳支援ツールの開発を始め、昨年 5 月末に“ TransAssist ”という商標でリリースいたしました。その目的は、「翻訳の生産性の向上」により、先の 3 つの要素を同時に解決しようというものです。翻訳のまさに現場における生産性を向上させ、効率的な翻訳ワークフローを構築し、しかも、翻訳を資産としてプールし有効活用できるソフトウェアを目指しました。

●翻訳の現場から生まれた“ TransAssist ”

第一線で活躍するフリーランスの翻訳者と、来年 20 周年を迎える技術翻訳に特化した弊社とが共同で開発した TransAssist は、まさに翻訳の現場から生まれたソフトウェアであり、従来の翻訳支援ツールに不満を抱えている翻訳者、そろそろこうしたツールの導入を考えていらっしゃる翻訳者に、是非試していただきたいツールです。すでにご使用いただいている多くの翻訳者から、「もうこのツールなしでは仕事ができない」といった声もいただいております。また、当初の予想とはいい意味で異なるのですが、多くの一般企業（その多くが大手の製造業）にも導入されています。こうした好意的な反響を励みに、今後も「これからの翻訳業務にとって何が必要か？」をテーマに、開発を推し進めてまいります。

▼ TransAssist はホームページからのダウンロード販売

http://www.transassist.com
まずは、無料体験版をダウンロードしてお試しください。
価格：39,900 円（税込）
お問い合わせ：info@transassist.com

▼弊社について

http://www.honyaku.co.jp
コンピュータ（ソフト / ハード）、医学・薬学、医療機器、産業機械をはじめとする広範な分野の技術翻訳を中心に、DTP、グラフィックデザイン、WEB デザイン / 設計構築、ソフトウェア開発を行っています。
お問い合わせ：i-media@honyaku.co.jp

INTERMEDIA

フリーランス翻訳者募集

分野：医療機器、自動車・輸送機器、機械一般
言語：英文和訳、独文和訳
応募方法：弊社ホームページの「求人募集」から
条件：実務経験 3 年以上、ご応募後、トライアル選考有り

株式会社 インターメディア
〒 108-0023　**東京都港区芝浦** 2-14-13 MCK **芝浦ビル** 4F
TEL: 03-3453-1125　FAX: 03-3453-0966　E-mail: i-media@honyaku.co.jp